

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第57回『「コロナ時代」のタイミング ～ 内村鑑三 & 新渡戸稲造 ～』

筆者は、2007年から東久留米市で「新渡戸稲造『武士道』(岩波文庫、矢内原忠雄 訳)と内村鑑三『代表的日本人』(岩波文庫、鈴木範久 訳)を交互に、毎月読書会を継続している。新渡戸記念中野総合病院では、2020年から「新渡戸稲造『武士道』の音読会が、開催されている。新渡戸稲造(1862-1933)は幕末、盛岡に生まれている。札幌農学校に学び、卒業後は東大に入学するが、この面接試験で将来の希望について「我太平洋の架け橋とならん」と答えたという逸話を残している。しかし新渡戸稲造は東大の学問レベルに満足せず、アメリカに留学する。帰国後、母校である札幌農学校の教授に就任、教育と研究に勤め、また北海道開発の諸問題の指導にあたるが、体調を崩してカリフォルニアに転地療養をすることになる。このカリフォルニアでの療養中に書き上げ、刊行したのが、『武士道』である。そして第一次世界大戦後、国際連盟設立に際して、初代事務次長に選任され、世界平和、国際協調のために力を尽くしている。新渡戸稲造が、愛読したカーライルの『サーター・リサータス：衣装哲学』の『“Do thy Duty, which lies nearest thee, which thou knowest to be a Duty” (汝の義務を尽くせ。汝の最も近くにある義務を尽くせ、汝が義務と知られるものを尽くせ)』の言葉が、鮮明に蘇る今日この頃である。昨夜(2021年5月16日)『明日を考える会 ～ 次世代の社会貢献 ～』ニュースレター第18号がタイミング良く、送られて来た(添付)。大いに感服した。

内村鑑三(1861-1930)は、札幌農学校で新渡戸稲造と同級生であり、学んだ水産学を生かすべく国に奉職したのち、アメリカに留学し、帰国後、いくつかの学校で教鞭をとるが、いわゆる「不敬事件」が社会問題化し、一方、自身も病を得、教壇から去ることになる。しかし不遇をかこつ何年かの中に数多くの著作、論説を発表し、これらは教育や文学、芸術などを幅広い分野に影響を及ぼした。ちなみにこの時期に書かれた『Representative Men of Japan』(『代表的日本人』)は、新渡戸稲造の『武士道』(BUSHIDO~The Soul of Japan~)とならぶ、世界のベストセラー(英文版)になった。共に、苦難の時期に書かれている。人生は不思議な出会いである。「コロナ時代」求められている人物像は、「内村鑑三」&「新渡戸稲造」では、なかろうか!

「冗談を本気でする胆力 ～不思議な出会いの連続～」

順天堂大学 名誉教授
新渡戸稲造記念センター長
一般社団法人 がん哲学外来 理事長
「明日を考える会 ～次世代の社会貢献～」
会長 樋野興夫



昨年(2020年)「東久留米がん哲学外来・カフェ」&「読書会」メンバーによって、『樋野動物園』1周年記念誌「個性と多様性」(2020年10月13日発行)、『上野動物園の旅』(2021年1月15日発行)が、今年(2021年)は、4月2日に『井の頭恩賜公園の旅』、4月18日に『多摩霊園の旅』が企画された。まさに、「冗談を 本気でする胆力」の実践である!

「多摩霊園」には、内村鑑三(1861-1930)、新渡戸稲造(1862-1933)、南原繁(1889-1974)、矢内原忠雄(1893-1961)らの墓がある。所詮、我々には「座布団一枚の墓場しから残らない」。

筆者は、病理学者として、むなしさから出発する。自分を客観的に見る訓練である。

2021年4月30日、ACPFメールマガジン6号(『原田 明夫元検事総長を偲ぶ「本物の強さ」～「欣然たる面貌、快然たる微笑をもて」2021年4月刊)が送られてきた。

思えば、原田明夫氏(1939年11月3日～2017年4月6日)と、

『新渡戸稲造 武士道100周年記念シンボ』(2000年)、『新渡戸稲造(1862-1933) 生誕140年』(2002年)、『新渡戸稲造没後70年』(2003年)、さらに、国連大学で『新渡戸稲造 5000円札 さよならシンボ』(2004年)を開催する機会が与えられた。

筆者の『われ21世紀の新渡戸 とならん』(日本語版 & 英語版)の出版にも繋がった。人生は不思議な出会いの連続である。



『登山道の入り口から一合目、山頂目指して歩み続けて行きます』

がん哲学外来メディカル・カフェ in 世田谷深沢
スタッフ代表 月岡邦彦

一昨年、化学治療を行った病院の広報誌で「樋野先生のがん哲学外来」を知り、著書を読みあさりました。また、同時期にクリスマスチャンとして受洗に至り、教会でカフェを開きたいとの思いが与えられました。

所属する深沢教会の協力も受けて準備に入りましたが、開設日が決まったとき「コロナ禍」にて延期され、二か月後の2020年6月27日(土)にようやく開設。樋野先生から基調講演を賜りました。その時に、樋野先生から『コロナ時代の教養』として、次の三つの言葉をいただきました。

- ① 本質をとらえる力＝思考力
- ② 深い人間への理解＝感受性
- ③ 質の高い決断＝安定的

それから毎月定例開催を続け、今年の4月で11回の開催に至りました。再度のコロナ禍においても「限りなくリアルに近いカフェ」を作るために知恵を出し合い、工夫し、「ZOOM併用開催」を決断しました。これにより、全国の人と繋がりがあう相乗効果も生まれています。(「逆境から順境へ」の実践)

今年7月24日(土)の「開設一周年」記念カフェの準備に入り・・・やと登山道の一合目にたどり着きつつあります。カフェスタッフの合言葉は『空っぽの器を用意してほごりした対話の場の提供』です。

私の役割は「天に命を返すまでカフェを続けて行くこと・継続することで、種を蒔く人になる」です。この使命感を心に持ち続け、自分の個性を生かし、品性を磨き、カフェに集う方々(隣人)に寄り添い合って「愛」で生きて生きることを確信し、山頂に向かって一歩ずつ上り続けます。

明日を
考える
ヒント

「雨の後にはいい天気やってくる」

(フランスのことわざ)

「逆境が人に与える教訓ほどうるわしいものはない」

(ウイリアム・シェイクスピア)